

外に飛び出してしまったど。その様子を流しようすに下りて、見ていたおがさまは、何げなしに外に出て行つただど。そしたらその若者は熱いのを我慢して、知らつぱくれて、

「おがさま、おがさま、あそこの山は何つー山でおざんやすか。」

と聞いただと、そしたら、おがさまはすかさず

「ホロホロ涙なみだに喉のどやけ山つてゆうだがらす。」

と言つただど。そしてその若者は一晩泊ひとばんつて家に帰つて行つただど。

おがさまに「ダンゴ」ということを、お教えてもらったから、家に帰つて、かがーに作つてもらおうと思つて、忘れないように「ダンゴくダンゴく」とかぜながら、歩いて行つたら、小さな川があつただど。そこを

「ペーン」

と言つてはねたらこんどは、「ペーン」になつただど、

「ペーンく」